拝啓　今年も早や８月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年は、６、７月には雨の日が多く、ずいぶん長い梅雨が続きました。８月に入ると今度は猛暑の日が続いております。毎朝散歩する緑道から少し横に入った住宅街の散歩道にさるすべりの並木道あるのを発見し、歩いてみましたら見事でした。距離から言って、ひょっとすると、日本一かもしれないと思いました。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第６回です。「Subservient ということ」という項目には次のように書かれています。

「　（subservient とは）英和辞典によれば、「役に立つ」という意味である。

ある説教の時、「今日はほかのことは忘れても、この言葉は忘れるな」と、先生が言われたのを思い出す。その意味は、次のパウロの言葉で明瞭である。

> 神を愛するもの、すなわち御旨によりて召されたる者の為には、凡てのこと相働きて益となるを我らは知る。神は預め知りたまふ者を御子の像に象らせんと預じめ定め給へり。(ロマ書８・28－29)

「益となる」とは、「救いのために役に立つ」という意味であり、このことをここでは subservient という。

小西先生は「できるだけ長生きせいよ。70 歳になると、分かるようになってくる。私も、昔のことを思いおこして、ああ、あの事もあれでよかったんだな、この事もこれでよかったんだな、と思うようになった」と、感慨ふかげに言われたことがあった。」

上記のロマ書８章 28 節は、口語訳聖書の言葉では、「神は神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者達と共に働いて、万事を益となるようにしてくださることを、私たちは知っている。」という言葉ですが、私が昭和 37 年４月に高円寺東教会に行くようになって、ロマ書第 41 講の説教で聞いた言葉で、小西先生もその時この言葉を覚えておけと言われたし、私にとってもその後最も大切な聖句の一つとなりました。私も、結構いろいろ窮地に立たされる事も多いのですが、その時には、「万事が益となる、万事が益となる」と心で称えながら、やらなければならないと思う仕事をやりますと、今まで、不思議にその通りになりました。

また、小西先生が、「あの事もこれでよかった、この事もこれでよかったと思うようになった」と書かれていますが、私も今 78 歳、全く同感の思いです。小西先生から教えて頂いた信仰が、どれだけ私の生きる支えになったかと思います。

『小西芳之助の生涯――恵心流キリスト教の牧師』が出来上がりました。多分このエンカウンターより早く皆様のお手元に届くと思います。感謝であります。

しばらく残暑が続きますが、涼しい秋がもう少しでやってくるでしょう。皆様も、新型コロナに感染されないように、マスク、手洗い、うがいなどを励行されまして、お元気で毎日お過ごしくださいますように。

8 月 24 日　　山口周三

エンカウンターの読者各位